
2015パークレンジャー養成基礎研修

第2回講座 「自然を見てみよう」



2015/4/19

NPO法人日本パークレンジャー協会

武田敏文

自然を観察とは？

観・察: 「(物事の)本質・真理」をみて・「見抜く(見通す)」

「見る」: 眺める、目で存在をとらえる、視覚に入れる

「視る」: 視覚に入れてみる

「観る」: 真理を見る、道理をみる

「診る」: 診断する

「看る」: ことにあたる、面倒をみる、

五感で自然を感じる

1) 五官 : 人間が持つ五つの感覚器官

目、耳、鼻、舌、皮膚

2) 五感 : 五官の持つ情報感覚

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚

- * 動物(人)は相手(対象)が何であるか知ろうとする時
自らの五感をフルに働かせてそれを確認しようとする
- * 五感で感じて自然を見れば 普段見過ごしていた
ものに気づき 興味が深まり 親しみがわいてくる

Sense of Wonder : Rachel Carson

「知ることは感じることの半分も重要ではない」

五感で感じて体で覚えたことは記憶に残る

自然(森)をどう見る?

1) 遠くから(森)全体を見る

- *どんな地形か? どんな緑の色合い、形の違い、樹種…
- * 森の歴史 (森の深さや構成、枯れているもの…)
- * 周囲の様子 (動物はいるか 鳥や獣の気配 声 音…)

2) 近づいて見る

- * 近づくことで見えなくなるもの 見えてくるもの
- * 木の階層 (高木、次に高い木 低木)
- * 木の種類 肌 葉の形 コケ 根 模様 虫…
- * 匂い 音 味 触った感じ、湿気・乾き…

3) 左右、前後、上下を見る

- * 上を見る (空の色、雲、木の枝の張り方や形)
- * 下を見てみる (落ち葉、腐葉、キノコ、生きもの)

4) 地面を調べて見る (枯葉の色・形・手触り・匂い・湿り・生きもの)

自然の見方のヒント

- 1) 全体構造を見る(絵に書いてみる)
- 2) 近づいてみる(左右上下)
- 3) 五感を使う(見る、聞く、匂う、味わう、触ってみる)
- 4) 目の位地を変えてみる(座る、腹ばい、仰向いてみる)
- 5) ルーペで大きくしてみる
- 6) 言葉で書いてみる(詩や俳句、歌)
- 7) 観察したことを分かち合う(1人の目より多くの目)
- 8) 名前にこだわらない

何のために自然観察をするのか？

■ 自然を知る(楽しみとしての自然観察)

読書や音楽鑑賞などと同じ、自然の景色や草花・木・緑・実り・紅葉など美しさに触れ、自然の不思議や面白さを知る喜び

■ 自然から学ぶ

* 自然は人を育てる

虫取・飼育・生命の大切さ、木登・冒険・恐怖、田舎への思い

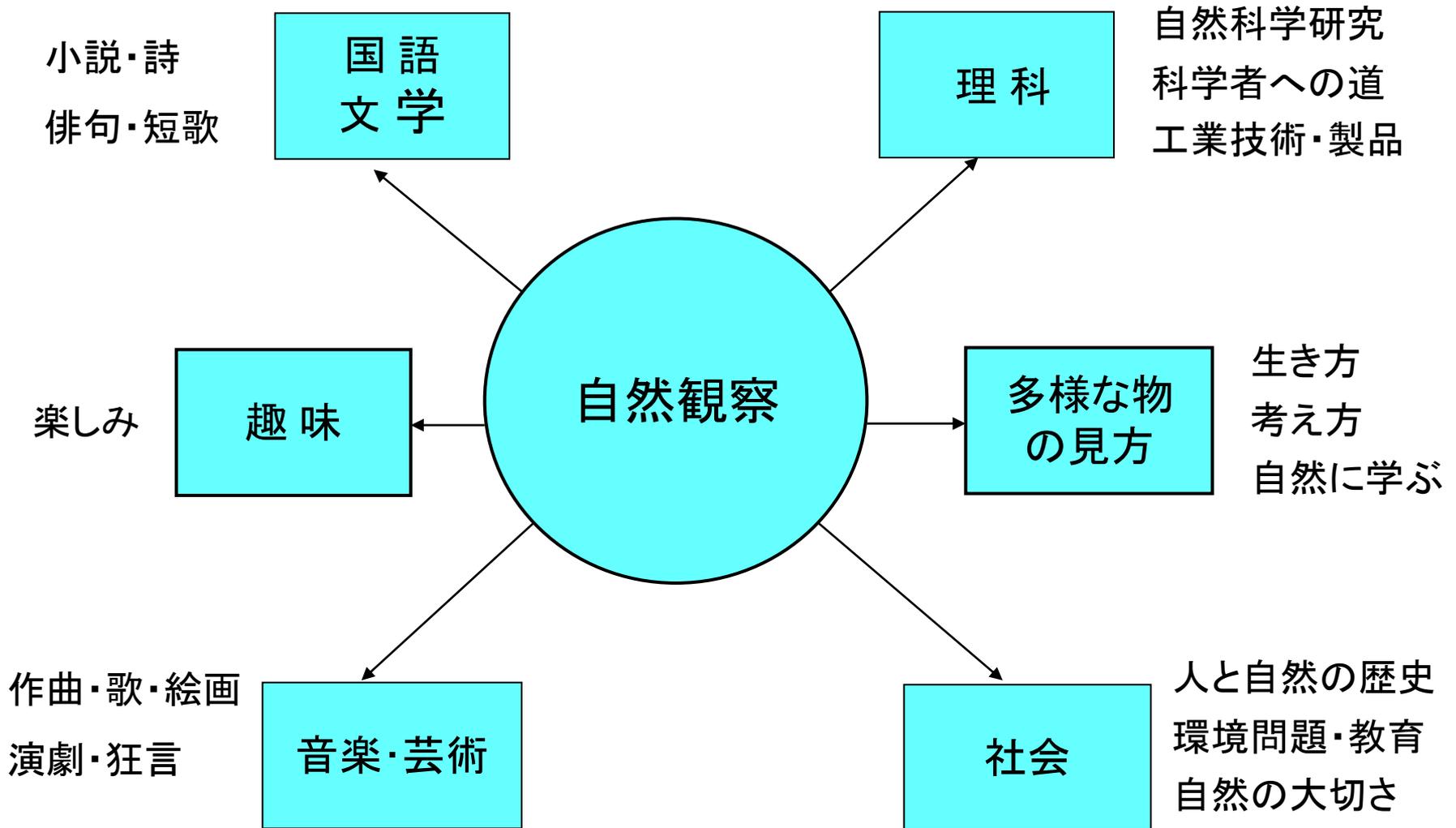
* 自然観察の道は様々な分野に通じている

自然科学、音楽、芸術、文学、工業、環境、多様な見方・考え方

■ 自然観察から自然を理解する

* 自然の美しさや不思議を楽しむことから自然を知り理解する

自然観察は様々な分野に通じている



人は自然を見て様々なものを創造してきた

自然の観察で伝えたいこと

*自然を楽しみ その不思議や面白さを体(五感)で感じて
知ってもらう

*自然の仕組みや人と自然の関係を伝える

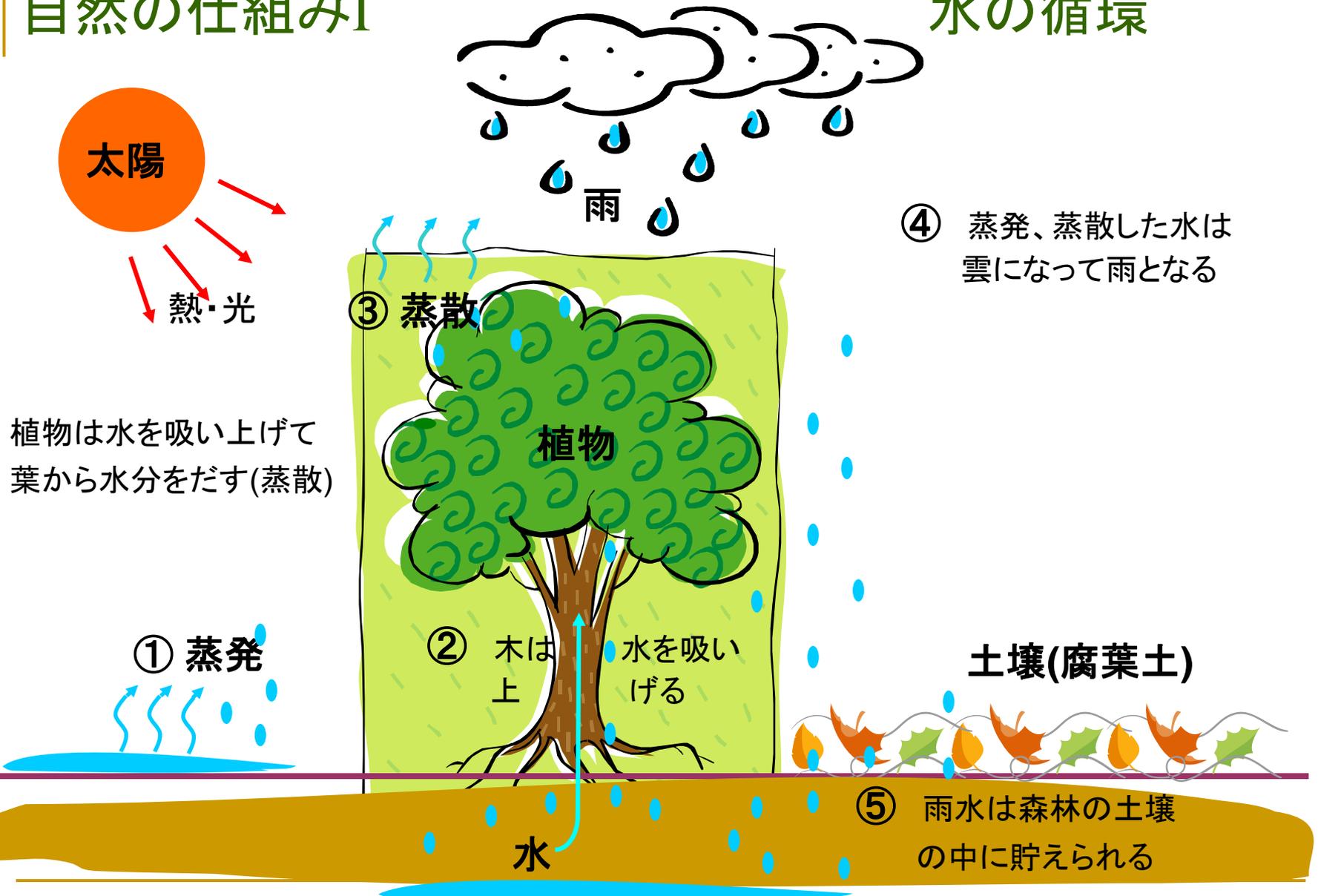
* 知識を伝えるのではなく考え方を伝える

人は自然を自分の体で感じて、初めて自然が身近にある
ことを知る。そして自分のこととして考えるようになる

自然に親しむ → 自然を知る → 大切にようになる → 誰かに伝える 8

自然の仕組みI

水の循環



水は森が貯えている

自然の仕組みII -- 生きもののつながり



生きものはつながって生きている(食物の連鎖)

メモ